

令和2年 4月21日  
大洲河川国道事務所

## 新しい肱川橋の開通見通しについてお知らせします

～新しい肱川橋が令和4年夏頃に完成し、地域の復興を後押し～

四国地方整備局大洲河川国道事務所が整備を進めている肱川橋橋梁架替について、上部工事や下部工事の工程の精査を行い、一定の見通しがついたことから、新しい肱川橋を令和4年夏頃に完成予定とします。

### ～架替により期待される効果～

効果1：大規模地震に備え、落橋や倒壊を防ぐ**地震に強い橋**になります。

効果2：安全・安心して通行できる**歩行空間を確保**します。

効果3：大洲市の歴史的観光資源を活かした**観光振興を支援**します。

※本施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】等に該当します。

### 【お問い合わせ先】

### ○主な問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所 TEL: 0893-24-5185 (代)

副所長 (道路) おおにし あつし (内線205)  
大西 篤

○工務第二課長 のがみ なおき (内線411)  
野上 直樹



# 肱川橋橋梁架替事業の概要

- 肱川橋橋梁架替事業は、大正2年竣工後100年以上経過した肱川橋の**大規模地震時の耐震不足の解消**や、**安全・安心して通勤・通学できる歩行空間の確保**を目的とする事業です。
- 景観に配慮した新橋の整備による大洲市の歴史的観光資源を活かした観光振興支援**を目的としています。

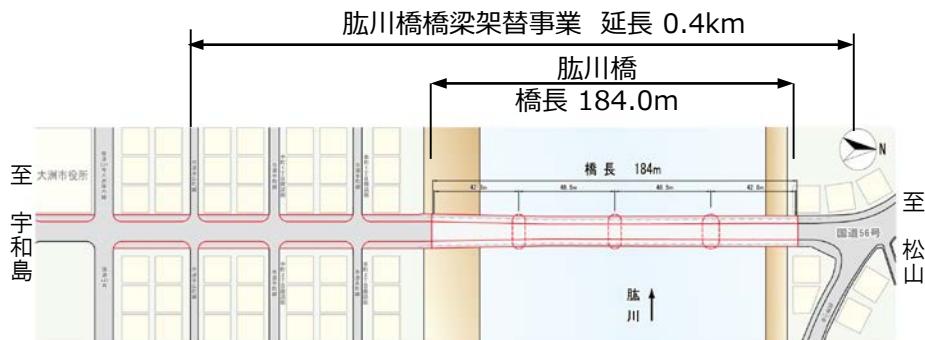
## 【位置図】



## 【事業概要】

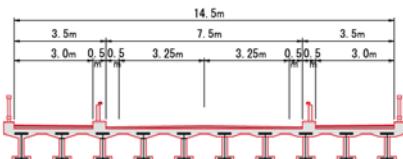
事業化年度	平成21年度
事業区間	自) 大洲市大洲 至) 大洲市中村
事業延長	0.4 km
橋梁名	肱川橋
橋長	184.0 m

平面図

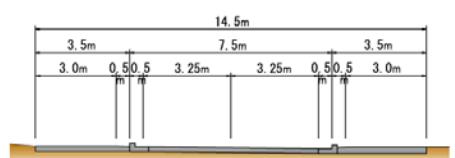


標準断面図

橋梁部



一般部



## ～完成イメージ～



## ～肱川橋の歴史～

### 初代



大正2年9月完成。  
詳細は不明ですが  
上部工は鋼製のトラス橋で、橋脚はレンガ積みと見られます。

### 二代目



昭和18年頃の写真では、上部工をケーブルで吊る補強を加えています。  
幅員は5~6mです。

### 三代目



昭和36年に2車線のプレートガーダー橋に架替られ、橋脚はコンクリート製となりました。

### 四代目



昭和42年に主桁増設によって下流側に向かって2.5mの拡幅を実施しました。

# 【効果1】大規模地震に備え、落橋や倒壊を防ぐ地震に強い橋になります

○竣工後100年以上経過した架替前の肱川橋は、大規模地震時における耐震性能が不足していました。

架替により耐震性能不足が解消され、大規模地震における交通途絶リスクが軽減されます。

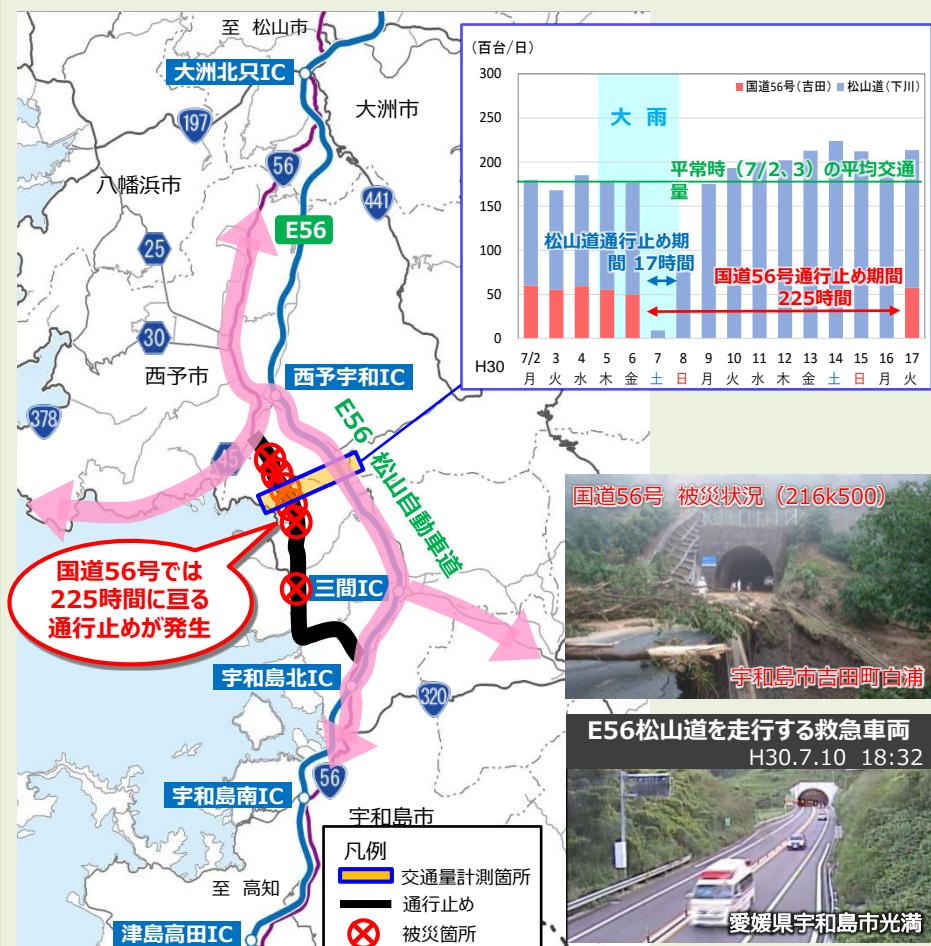
○松山自動車道とのダブルネットワークによる信頼性の高い緊急輸送路が確保されます。

～多重化された緊急輸送路～



【平成30年7月豪雨におけるダブルネットワークの効果事例】

松山自動車道と国道56号のダブルネットワークにより  
復旧や救急、支援活動などのための道路を確保



※この地図は、国土交通省国土政策局「国土数値情報」を基に編集・加工したものである。

# 【効果2】安全・安心して通行できる歩行空間を確保します

○肱川橋は地域の商業活動や通学など生活道として多くの方が利用されています。

架替前の肱川橋は歩道幅員が狭くすれ違いが困難な状況であり、利用者や保護者から安全な歩行空間の確保を訴える声があがっていました。

○架替により広い歩道が整備され、安全なすれ違いが可能となり、歩行者の安全性が向上します。

～市役所、大洲高校への通勤・通学ルート～



架替前の状況



架替前の状況



架替後の歩道（イメージ）

～歩行空間の確保～

歩道幅員が狭くすれ違い困難

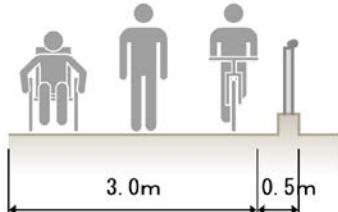
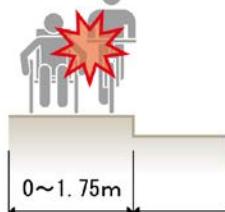
整備前

すれ違い時に危険！

→ 歩道幅員が広く安全なすれ違いが可能

整備後

安全なすれ違い



## 大洲高校PTAからの声

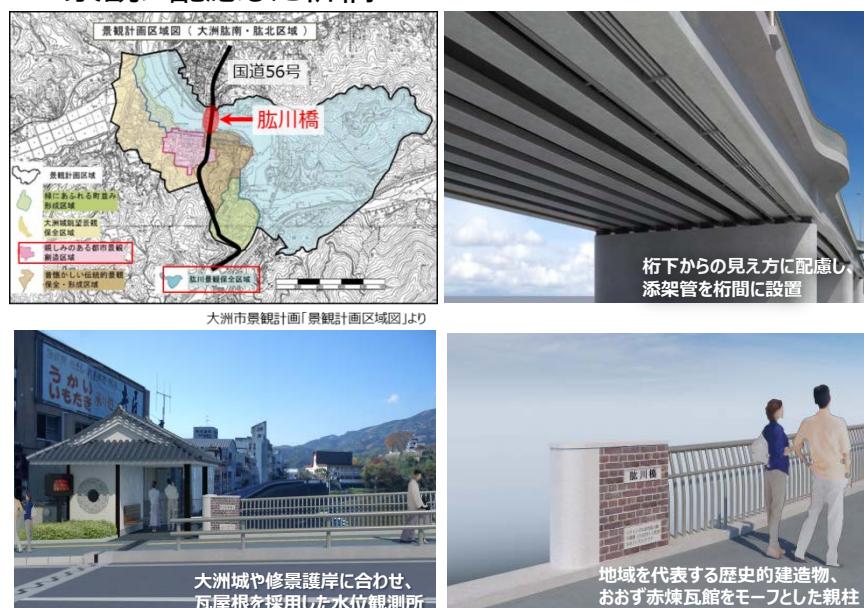
- ◇毎朝多くの生徒が利用しているが歩道幅員が狭く危なく感じる。
- ◇安全に通学できる広い歩道の整備が必要だと思う。

## 大洲市からの要望

- ◇歩行空間としての安全性に欠け、通勤・通学時における歩行者や自転車利用者にとって大変危険な環境となっている。
- ◇安全かつ快適な歩道の整備を要望する。

- 肱川橋周辺には大洲城をはじめ大洲市を代表する観光地が点在し、大洲市景観計画区域に指定されています。
- 大洲市は愛媛県内初の地域DMOを設立し、歴史的観光資源を活かした観光振興に取り組んでいます。
- 新しい肱川橋は、伊予の小京都「大洲」観光の玄関口として景観に配慮した設計を採用しています。

## ～景観に配慮した新橋～



## ～代表的な大洲市の観光～



大洲のうかいは、岐阜市の長良川、日田市の三隅川と共に「日本三大鵜飼い」と称されており、特に大洲のうかいは、鵜匠船と屋形船が併走しながら川を下るという国内唯一の「合わせ鵜飼い」といわれる手法で行われており、毎年全国から多くの観光客が訪れます。

## ～大洲の観光施策の取り組み～

- 愛媛県で初となる「地域DMO」を平成30年9月に発足
- 豊かな自然、歴史文化などの資源を活かし多様な観光メニューを提供
- 新たな観光資源を創出するとともに、市民、地域団体等による地域資源を活かしたまちづくり取組を支援し育成
- 大洲市の観光の魅力をPRし、交流人口、知名度の向上を図る
- 公衆無線LANの整備、案内サイン、パンフレットの多言語化などのインバウンド対策を推進
- 高速道路を通過する観光客が市内に立ち寄る取り組みの検討

## 【地域DMOの発足】



## 【インバウンド対策への取組】

